

研 究 分 野	増養殖技術	部 名	ほたて貝部
研 究 課 題 名	新耳吊り養殖技術開発試験		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.15 ～ H.17		
担 当	小坂 善信		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

これまでの養殖方法を見直し、生産効率が高く、経費の削減を図るための新しい耳吊り養殖方法を開発する。

〈試験研究方法〉

陸奥湾内5地点（東湾1地点、西湾4地点）で従来の養殖方法（丸籠、パールネット、アゲピン耳吊り）で行ったホタテガイと、ループ式のものとして試作したロープ（撚りが少なく、留金の脱却が簡単なもの）に新耳吊り留金を直接はめ込む方法で養殖したホタテガイの成長（殻長、全重量、軟体部重量）等を比較した。試験は平成16年1～3月に開始し、平成17年1～2月に終了した。

〈結果の概要・要約〉

従来のホタテガイ養殖方法と今回試作したロープに新しい留金をつけて養殖して成長を比較したところ、新しい留金の耳吊り養殖のほうが他の養殖方法よりも成長が早いことが判った（図1、2、3）。さらに、試作したロープに留金の間隔を変えて吊るしたところ、ホタテガイ2個体の間隔を狭くし、さらに10cm間隔を空けて次の2個体を吊るした方法（等間隔）が、2個体ずつ間隔を広げて吊るした方法（異間隔）よりも成長がよかった。しかし、昨年の試験では、使用方法や養殖水深によっては、留金から貝が脱落したものも見られたので、脱落しにくいように留金の形状を一部改良したところ、蝶番に一部着色が見られるものも出てきた。

〈主要成果の具体的なデータ〉

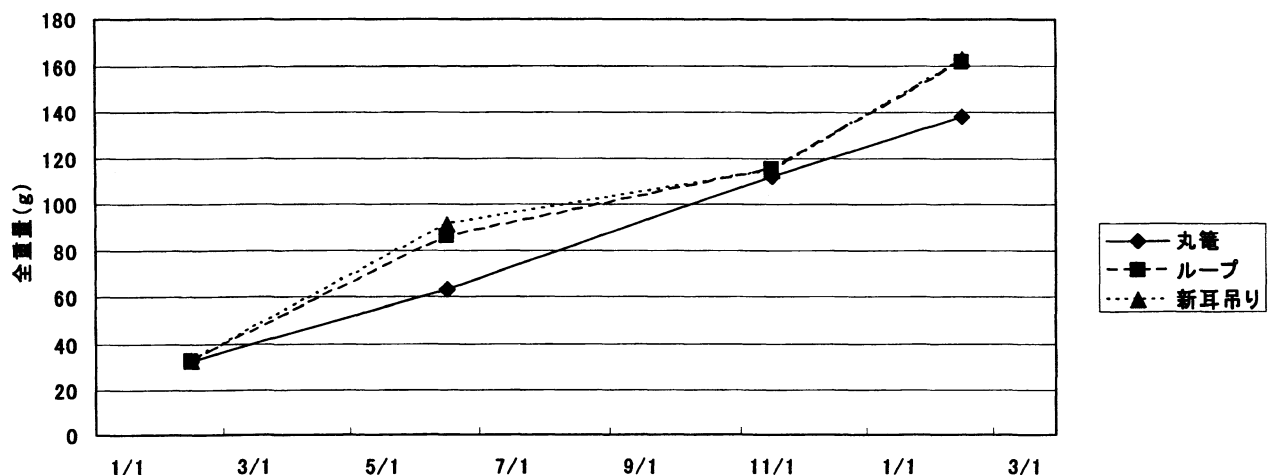


図1 養殖方法別の成長(1)

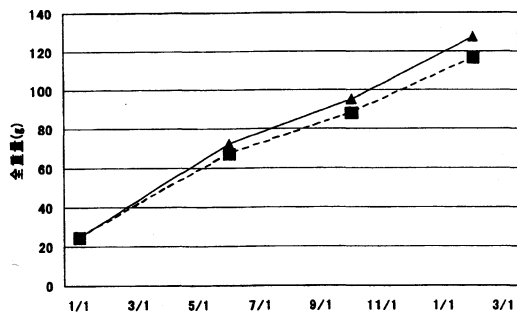


図3 養殖方法別の成長(3)

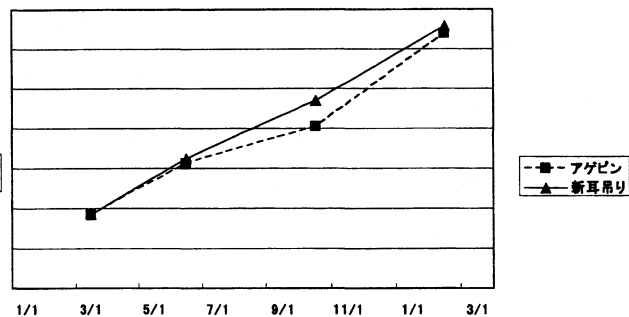


図2 養殖方法別の成長(2)

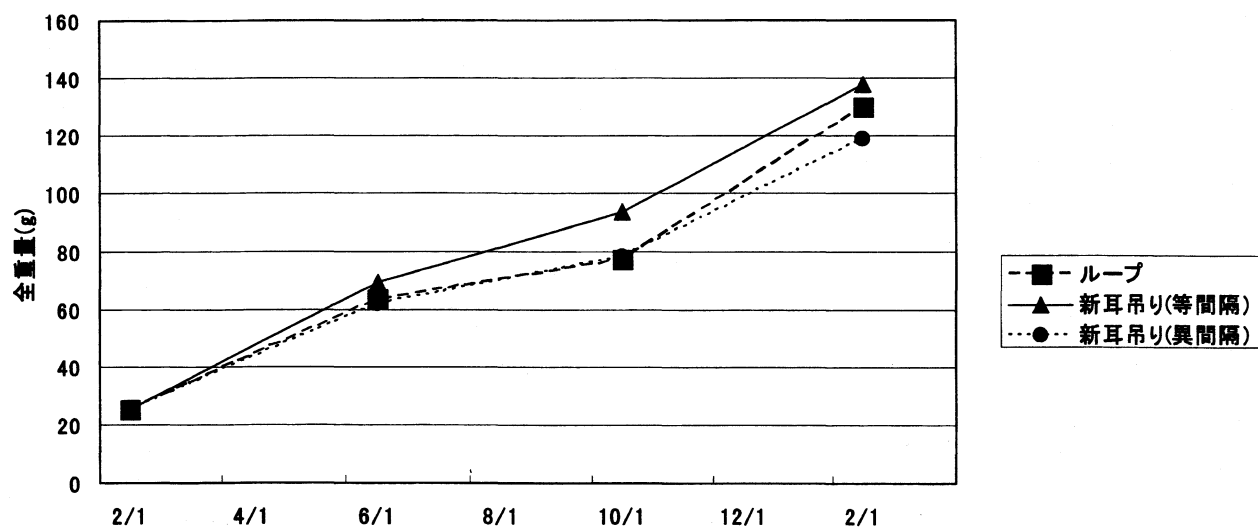


図4 吊り間隔別の成長

〈今後の問題点〉

新しく試作した留金用ロープを使用しても、これまでの養殖方法よりも成長が良いことが判ったが、この留金を大量生産するときを考慮に入れて、留金の形状の改良および材質についても検討する。さらに漁業者に受け入れられるように、留金の使用方法（ロープへの脱却、出荷方法）、作業性、効率性についても検討する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

蝶番部分の着色異常をなくするための留金の改良及び作業性向上作ためのロープへの留金取り付け方法を検討する。

〈結果の発表・活用状況等〉

なし